

横浜学

都市横浜を知るキーワードは「港」、港を介して港都横浜にアプローチ

講座内容

日本開国の港横浜は「生糸一港論」を御旗に世界に躍進。しかし、関東大震災により横浜港は様変わりを余儀なくされた。そして、その後の戦時・戦後の激動期を乗り越え、現在は日本の国際戦略港湾の中核港に。本講座ではそんな港の歴史を振り返りながら港都横浜論にアプローチ。

期 間	5月13日～7月1日	受講料	10,000円
曜 日	火曜日	定 員	40名
時 間	13:30～15:30	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全8回	持ち物	筆記用具
教 材	講師が毎回資料を用意します。		
備 考	7月1日はスケジュールに記載しましたテーマでの座学を予定していますが、横浜港振興協会での港湾施設見学の許可が頂けましたら、大黒ふ頭、本牧ふ頭(シンボルタワー)をバスで巡る港湾施設見学を実施します。その折はJR関内駅南口集合13時出発・15時解散の予定になります。お含みおきください。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容	担当講師
1	5月13日(火)	江戸内海の湊 —鎌倉時代から湊の役割を担った神奈川湊と六浦湊—	小林 照夫
2	5月20日(火)	条約締結時の開港場は神奈川 —ハリス案を覆しての開港場横浜の誕生—	小林 照夫
3	5月27日(火)	開港時の横浜に運上所 —その当時の運上所(現在の税関)とその附属機関英学所の機能と役割—	権田 益美 小林 照夫
4	6月 3日(火)	パーマーの横浜港改造 —大さん橋が築造され外洋船が係船できる港に—	小林 照夫
5	6月10日(火)	新港埠頭の建設と赤レンガ倉庫 —横浜港が国際級レベルの港に—	小林 照夫
6	6月17日(火)	港のイメージアップを担った『山下公園』と『港の見える丘公園』 —公園内に建つ歌碑から読み取る横浜港の情景を唄に介して—	新田 知子 小林 照夫
7	6月24日(火)	コンテナ船時代の到来 —港湾荷役作業と港湾社会の在り方に大きな変化が—	小林 照夫
8	7月 1日(火)	国際戦略港湾下での横浜港 —海上輸送のグローバル化に伴う日本の港の現状と横浜港が担う課題—	小林 照夫

講師紹介



小林 照夫(こばやし てるお)

本学名誉教授

博士(社会学)。元日本港湾経済学会会長。本講座に関連した著書としては、『港の歴史—その理念と現実』(成山堂書店)、『巨大都市と漁礁集落—横浜のウォーターフロント』(成山堂書店)等。その他の著書については、ウィキペディア小林照夫の項を参照ください。



権田 益美(ごんだ ますみ)

本学国際文化学部非常勤講師

博士(文学)。本講座に関連した権田の論稿としては、神奈川県立図書館編『郷土神奈川』所収、「横浜開港場における英語教育—ヘボンを介して開設した『横浜英学所』」があります。この論稿はネットで読むことができます。



新田 知子(にいた ともこ)

声楽家

フェリス学院短期大学音楽科声楽専攻卒業、同専攻科終了。故渡辺明、三縄みどり師事。山手イギリス館等で歌い、現在は声楽アンサンブルを学ぶ傍ら、地域の合唱団で指導。